

H 22 - ③ - 3

2010.04.12

豊中クラブ自治会館の建築について

平成21年(2009年)9月

関西大学名誉教授
豊中市文化財保護審議会副会長

永井規男

I はじめに

豊中クラブ自治会館は、阪急宝塚線豊中駅の西側、豊中市玉井町1丁目226から227号に所在する。豊中住宅地区の連合自治会が所有し、管理・運営する建物である。かねてから地元では、箕面動物園にあった建物を宝塚動物園の新設に際し現在地に移築したものと伝えられてきた。箕面市総務部に保管されている観光絵葉書などの資料<注>によると、当建物はその特徴から、明治43年（1910年）に箕面停留所前に建てられ、ブラジル珈琲を供するカフェパウリスタの店舗として使用された可能性が高い建物である。カフェパウリスタは、大阪では最初の純粋のコーヒー専門喫茶店であり、当時は喫茶店と称していた。また初期郊外住宅地の倶楽部建築の多くが老朽化に伴い建て替えられるなか、当建物は当初の姿を大きく変えることなく、今にいたるまで自治会館として利用されてきた。

建物は、木造二階建、切妻造、亜鉛メッキ鋼板（波板）葺で、南妻（正面）を市道に向けて建つ。正面の外観は建築当初の面影がほとんどなく、一階の弓形の欄間窓にわずかにその片鱗を認める程度である。しかし内部は、一階と二階の天井が当初の形をとどめており、部分的にかなりの改装が施されているとはいえ、なお当時の洋風建築としての雰囲気をよく残している。また階段の手摺や二階平天井の格子内模様の意匠、正面をのぞく窓廻りの構成と意匠などに、精妙で工夫を凝らした設計ぶりが窺われる。小屋組はトラス構造になり、当初の形式のままと考えられる。

<注> 図版に掲載した箕面停留所前を撮影した古写真（絵葉書）は、豊中市教育委員会が豊中クラブ自治会館を調査するに際し、箕面市総務部総務課から提供を受けたものである。したがって、本報告書に使用した写真については、箕面市および豊中市教育委員会の許可なく転載等、他の目的に使用することを禁じます。

II 調査の概要

- <建築名> 豊中クラブ自治会館
<所在地> 豊中市玉井町1丁目267、227
<構造形式> 木造二階建、切妻造、亜鉛メッキ鋼板（波板）葺
<規模> 一階 梁行7.28m、桁行8.19m
二階 梁行7.28m、桁行9.10m
<建築年代> 不明。ただし明治43（1910年）建立の可能性あり

1. 建物の現状

a. 平面構成

正面は市道に面し、その左手に両開戸の入口があり、内部は建物背面にまで通じるモ

ルタル塗りの土間となる。土間右側に2室がある。前が洋間、奥は一段高い床をもつ8畳強の押入付の和室である。土間の中ほどから二階に上がる階段がある。入口の内部左側には片引込の戸がつく。土間通路の奥は開放となり、建物北側に増築された諸室に面する内庭に通じている。

建物北西部に設けられた木造階段は、コーナーに合わせて上方で屈曲して登る。二階の内部は一室の広間で、正面内側に2本の独立柱が立つだけである。正面に3口の窓、両側面はともに4口の窓、背面は中央に1口の窓とそれに接する三方に窓をもち開放的な構成をもつ。

b. 小屋組

キングポストのトラスで6組あり、母屋桁に垂木を配している。妻は半間間隔に束柱をたて、中央で真束を挟んで長方形の換気窓を南北共に設けている。壁面には亜鉛メッキ鋼板の波板を張っている。

c. 建具

当初の建具はほとんど残っていないが、1階入口の上側左手にある木製建具は当初のものである可能性がある。

d. 細部・意匠

正面窓の欄間のアーチ型、階段の手摺の形、二階平天井の格子内模様、窓の構成、柱の削形など、明確な洋風建築の諸要素をもつ。

e. 寸法

柱間1間6尺として設計している。この尺はフィート尺である可能性がある。寸法についてはなお詳細な実測調査を要する。

2. 歴史

この建築は、豊中住宅地の倶楽部として設置され、現在にいたるまで用途を変えることなく地元自治会の会館として利用されてきた。阪急電鉄は大正2年(1913年)、豊中停留所を開設し、集客施設としてグラウンドを整備するとともに、翌3年(1914年)にはその周辺において豊中住宅地の分譲を開始した。当建物の建築時期は明確ではないが、阪急が大正6年(1917年)8月に発行した『山容水態』臨時号である「住宅経営」には、豊中住宅地の分譲平面図が掲げられ、ここに「豊中倶楽部」の名が記載されている。また同じく大正6年(1917年)には豊中自治会が結成されており、この時期までに建てられていた可能性が高い。

一方、地元ではかねてより、当建物は箕面動物園から移築したものと伝えている。阪急電鉄宝塚線の前身である箕面有馬電気軌道(箕面電車)が、明治43年(1910年)3月に開通し、箕面公園への来園者が増加すると、停留所前の集客を見込んで郵便局やお伽倶楽部などの建物が建てられていった。箕面市総務部が保管する観光絵葉書は、この明治43年(1910年)から明治45年(1912年)頃の停留所付近の様子を詳細に伝えている。この絵

葉書写真に写る建物のひとつが、明治43年(1910年)、箕面動物園の開園にあわせて建てられた洋館で、翌44年(1911年)6月25日にはカフェパウリスタ箕面喫茶店がこの建物に開店した。純粹のコーヒー店であったが、あまりに先駆的であったためか、わずか一年ほどの営業で閉店した。その後は同じ箕面停留所前であった大阪お伽倶楽部の事務所となったらしいが、いつまで使用されていたかは不明である。大正5年(1916年)3月31日、箕面動物園は閉園となり、大正9年(1920年)頃には、箕面に特有であったラケット形線路が廃止され、つづく大正10年(1921年)には線路の内外が宅地化された。以上の経緯からすれば、当洋館は、遅くとも大正5年から10年の間には停留所前から撤去・消滅したものであると思われる。上に述べた豊中倶楽部に関する若干の資料も勘案すると、この洋館が大正5、6年頃に豊中へ移築されたとしても、双方の経緯から見ると、不合理はないと考えられる。

3. 絵葉書写真に見る箕面停留所前の洋館

コロニアル様式を基調とした木造二階建、切妻造の洋風建築。全体のプロポーションは高目で屋根勾配もやや急である。アーキトレイブとコーニスの上の三角形の破風屋根には、アカンザスを中心とした唐草を内部前面に大きくえがき、頂部にはギリシア建築のantefix アンテフィックスに似た装飾化された棟端飾りの瓦を載せている。二階正面は3柱間の開口とし、中敷居と鴨居で上・中・下の3段にわけ、それぞれにガラス戸を引き違いにたてている。内部にも間仕切りのガラス戸が建つようなので、ベランダの前をガラス戸で覆ったかたちになる。一階は壁面を二階より内側に引き込め、二階前面を支える梁を両側の持送りと中二本の吊束と幕板とで支えている。側境は中央を狭くした3柱間に分けられ、腰板付のガラス戸を納めている。中央間は両開戸でここを出入口としたようである。

側面二階の4口の窓を等間隔にあげ、内部には上下窓を納めているように見える。現在は上・中・下の三段にわけ、それぞれに回転窓をおさめている(移築時の仕事か)。背面二階には横長の窓を中心に、その上方と左右にも窓を付し、全体として凸字形を呈する珍しい形の構成をとる。外壁は下見板張のようであるが明確ではない。屋根は本瓦葺のようであるが、種類は不明である。

また西面には片流れの瓦葺の庇がついており、本屋の付属屋であったようである。

4. 二つの建物の共通点と相違点について

豊中クラブ自治会館は現在、外面全体を亜鉛メッキ鋼板(波板)で覆われているため細部を比較するには制約が多い。しかし箕面停留所前の洋館を移築した可能性を検討するため、絵葉書に写る洋館の特徴と、豊中クラブ自治会館の現状から、あえて両者の共通点、相違点を挙げると次のようになる。

a. 共通点

- ①ともに木造二階建、切妻造の構造で、屋根勾配が比較的急である

- ②二階前面を支える梁の両端に、斜めに下る持ち送りが両者ともに認められること、また幕板全体の形状
- ③正面一階の窓（扉）の垂直材と水平材の間隔比率
- ④正面二階の3口の窓の大きさと配置
- ⑤側面二階の4口の窓の形状、大きさと配置
- ⑥背面の凸字形の構成をとる4口の特徴的な窓の形状と配置
- ⑦自治会館一階入口内部の引込戸のガラス窓と、洋館正面一階のガラス窓（扉）および二階側面のガラス窓の意匠

b. 相違点

- ①自治会館の正面屋根破風に植物意匠がなく、中央に通風孔が開けられていること
- ③側面二階の窓が3段構成であること

以上のうち相違点については、いずれも移築時か、もしくは後世に変更が加えられた可能性も考えられるため、決定的な相違点とはみなしがたい。むしろ建物全体の形状や構造、各部で確認される細部意匠に数多くの共通点が認められるのであり、両者は同一の建築である可能性が高いと考えられる。

5. 建物の現状からの復原

豊中クラブ自治会館の現状を見ると、一階は左手の土間通路および階段室、入口内部の広間とその奥の和室に分かれる。広間の天井は周囲を画する格子をもち、それは土間通路まで延びている。土間と広間を仕切る装置は後設のもので、当初は階段下部を含んだ一室のホールになっていたようである。また奥の和室は現状は舟底天井であるが、そのうえに当初の棹縁天井がのこされていて、それは土間部分まで続いているので、当初は土間はなく奥半分はすべて床が高い和室構成になっていたようである。憶測すればここは立式になれない客のための座式の部屋ではなかったかと思われる。

二階は、2本の独立柱のところに戸を建てて、その前面1間通りをベランダ風に構成していたようである。天井もここは広間とちがって漆喰塗天井となっている。天井廻りは改装された箇所があるものの、ほぼ当初の形式・材料が残されている。

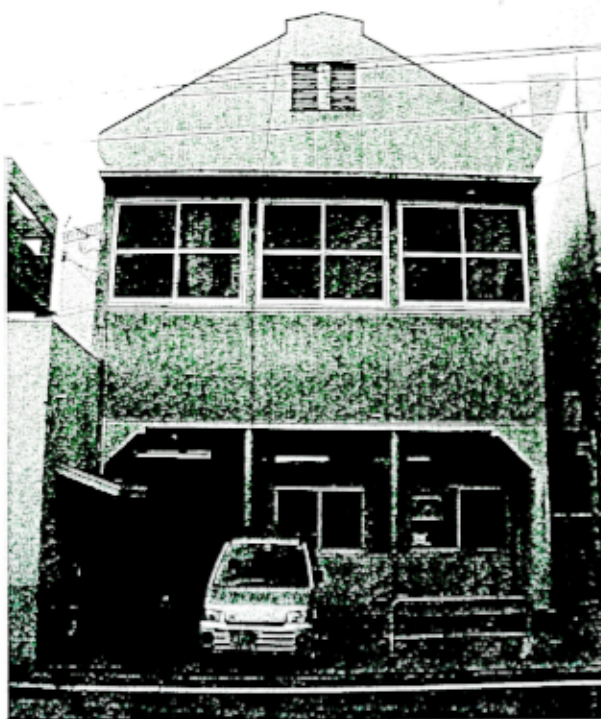
細部に関わる部分が欠失しているが、それらの断片が見つければ確実な復原を行うことも可能である。使われ方を含めての詳細な調査が望まれる。

III. 結び

これまでに見てきたように、それぞれの建物の経緯や特徴からみて、豊中クラブ自治会館が箕面停留所前に建てられた洋館と同一の建物である可能性は極めて高いと考えられる。ただし移築までのいきさつがなお不分明なことから、今後の新たな資料の掘り起こしに期待するものである。

以上のように豊中クラブ自治会館は、豊中に現存する明治、大正時代の洋館として、ま

た 90 年をこえる自治会館としての歴史をもつ建築として貴重なものである。さらに当時として先駆的な洋風喫茶店に使用された建築遺構としても非常に興味深い。さいわいカフェーパウリスタとして営業していた前後の時期の絵葉書写真が残されていて、当初の正面と側面などの外観を窺うことができる。内部は改装が大きいというものの、部材などに残されている痕跡などからある程度当初の姿かたちを復原することも可能である。このように今では得がたい、おそらく全国的にみても珍しい明治の喫茶店に使用された建築として、また倶楽部建築として慎重に保存され、かつ活用されることが望まれる建物である。



南側正面外観



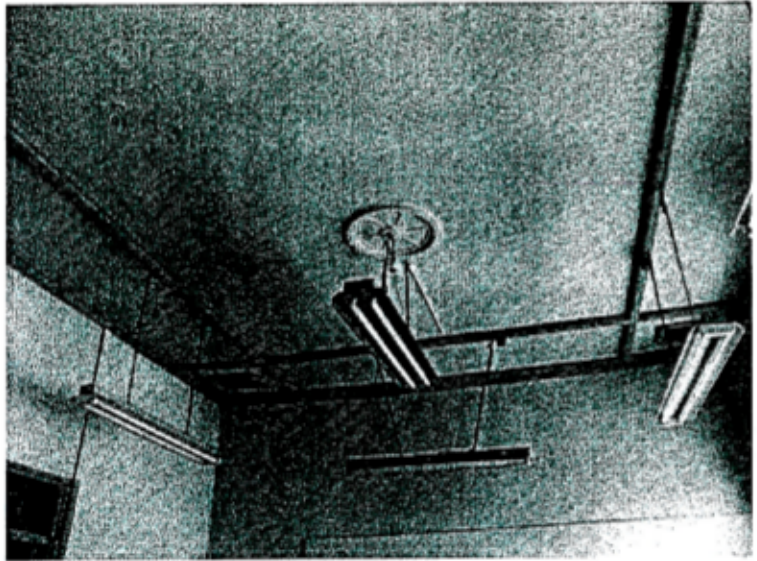
北側背面外観



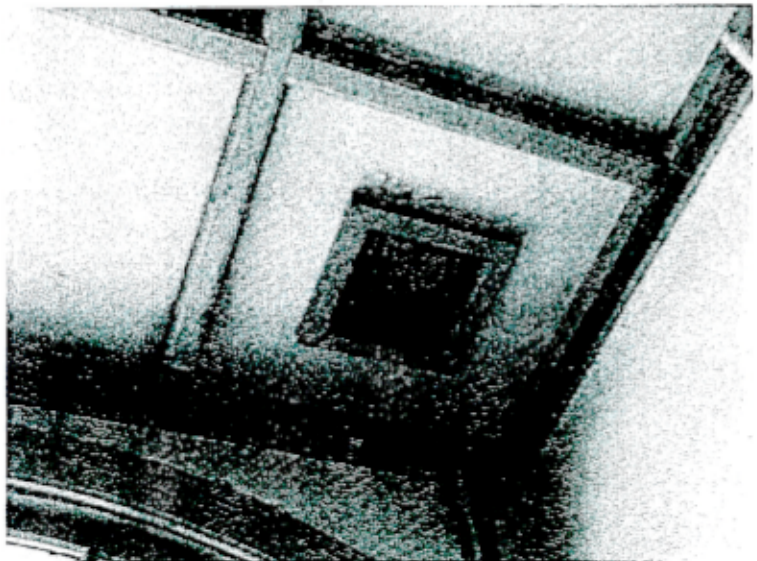
一階正面のようす



一階正面窓（東端）



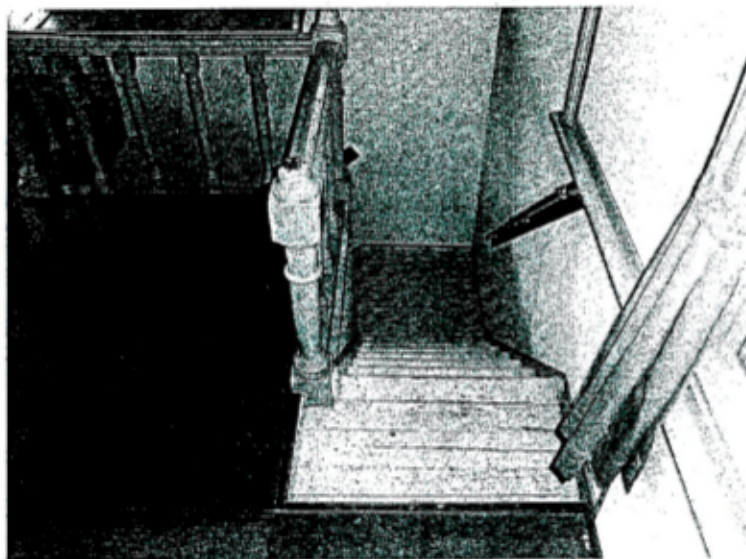
一階洋室壁面と天井



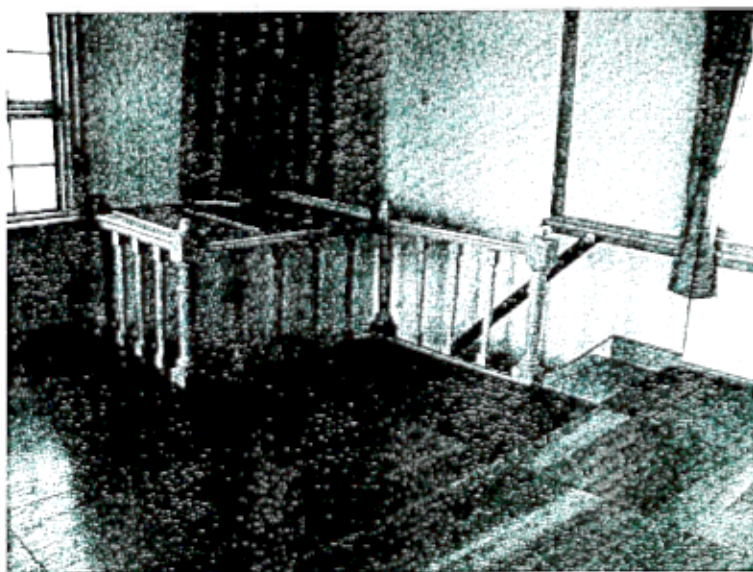
一階入口天井の換気口



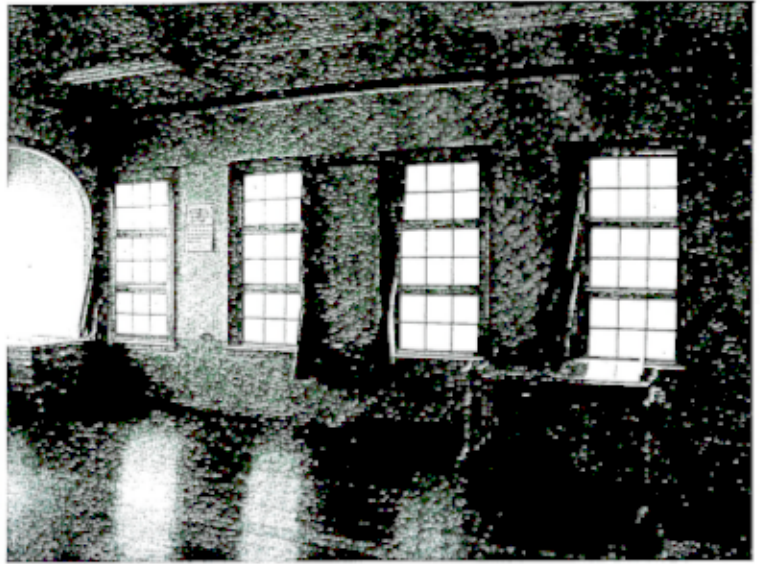
一階入口内部の引込扉



階段



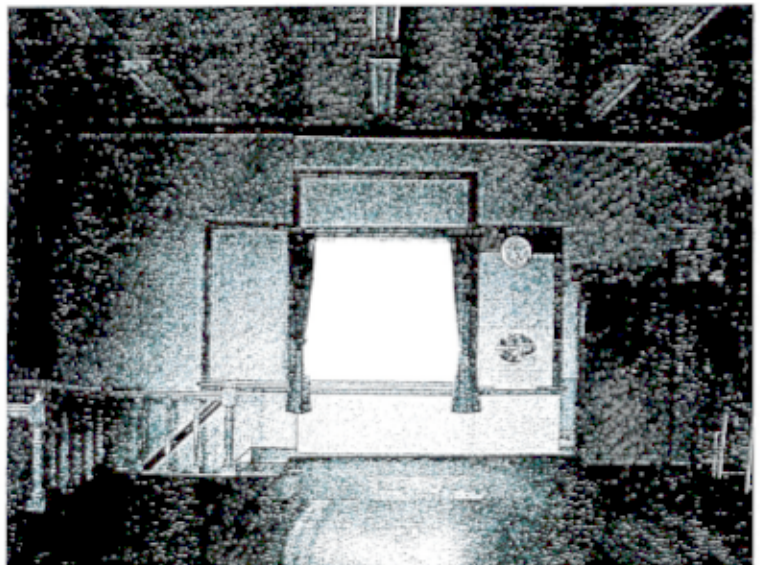
階段



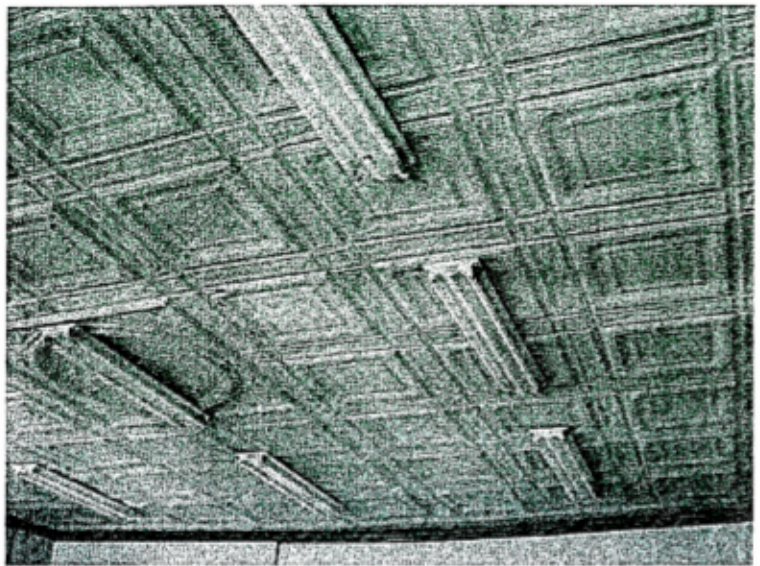
二階側面の窓



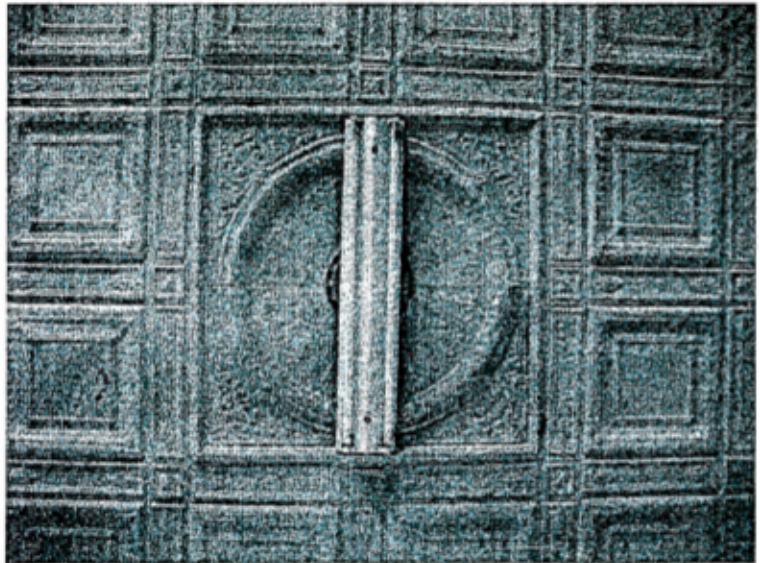
二階仕切りと正面の窓



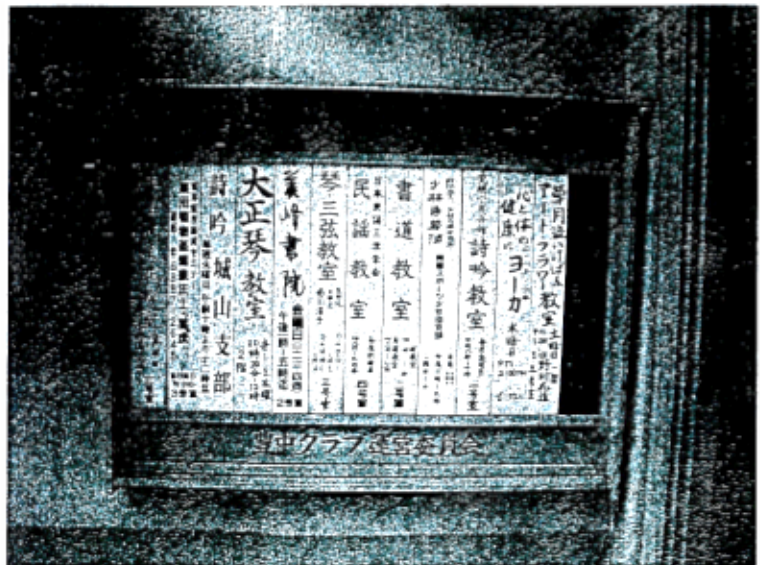
二階背面の窓



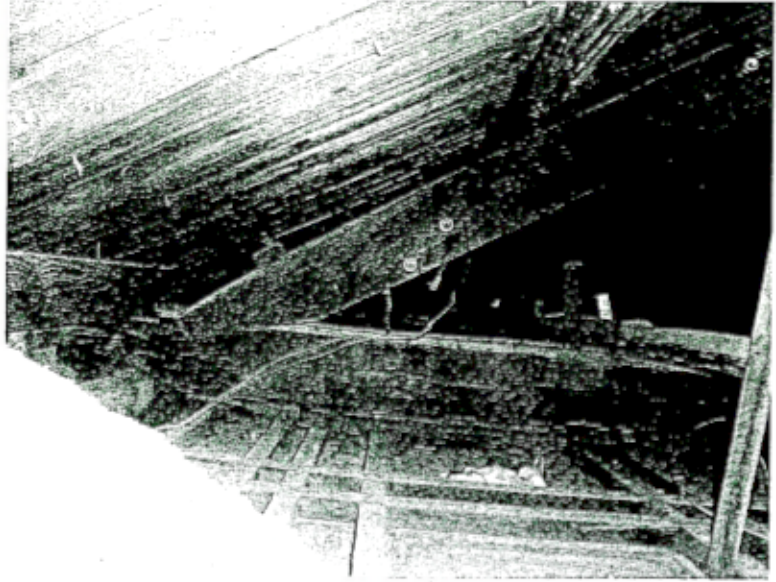
二階六



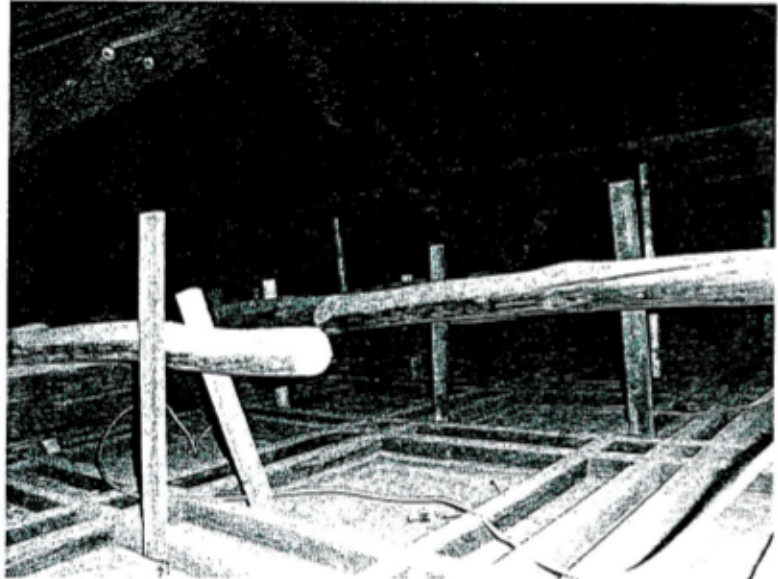
二階五



豊中クラブ自治会館 案内



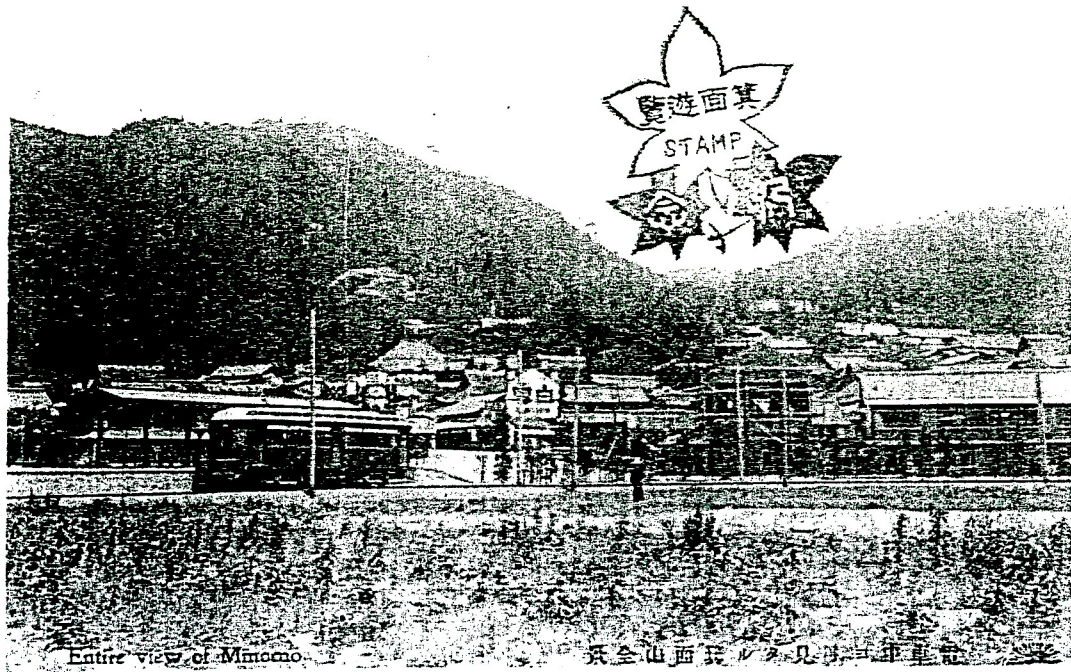
小屋組の状況（西側軒先付近の梁と垂木）



小屋組の状況（トラス構造）



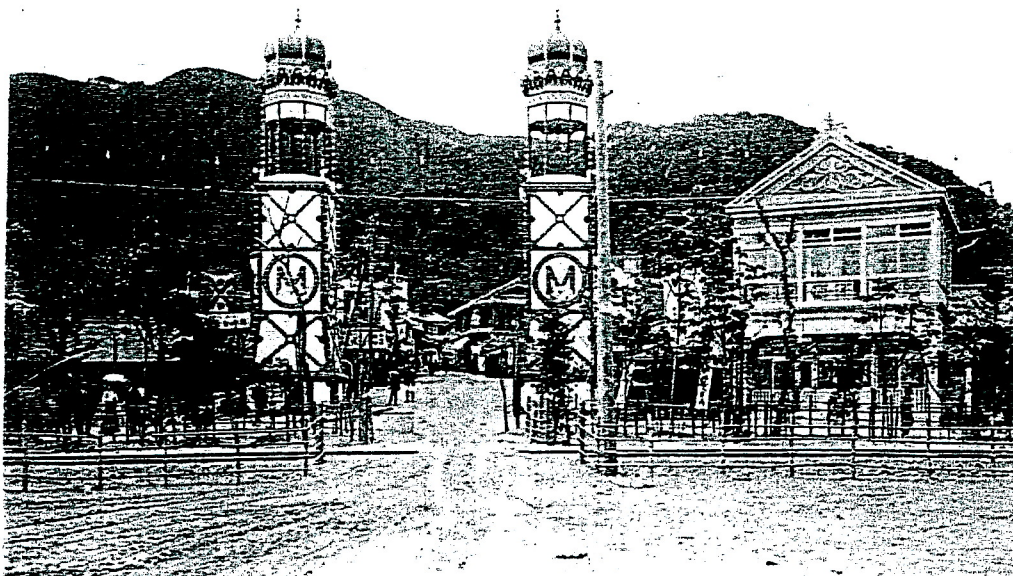
小屋組の状況（妻部のトラス組と換気窓）



Entire view of Minamo

箕面山面見遊覧電車

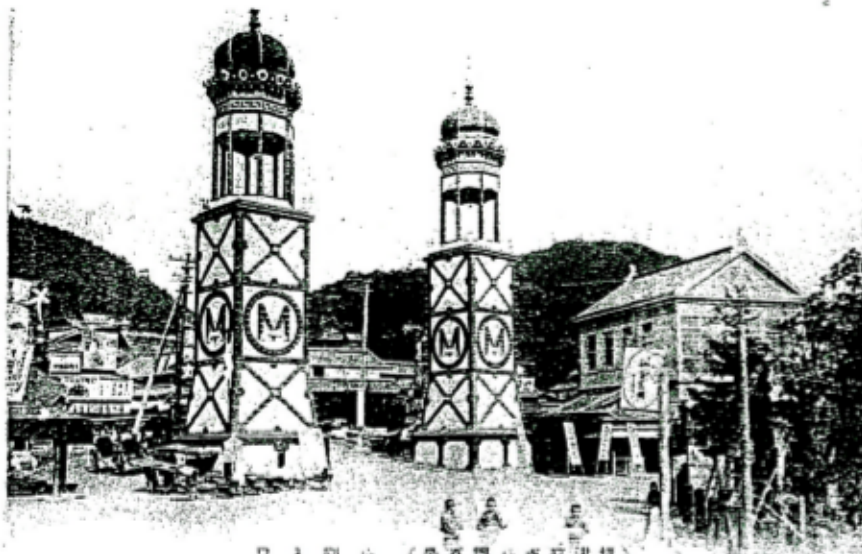
明治 43 年（1910 年）頃の箕面停留場付近（電飾塔はまだ建っておらず、洋館は建築中。3 月の開通時から夏頃までに撮影）



ENTRANCE OF MINOMO PARK

箕面公園入口

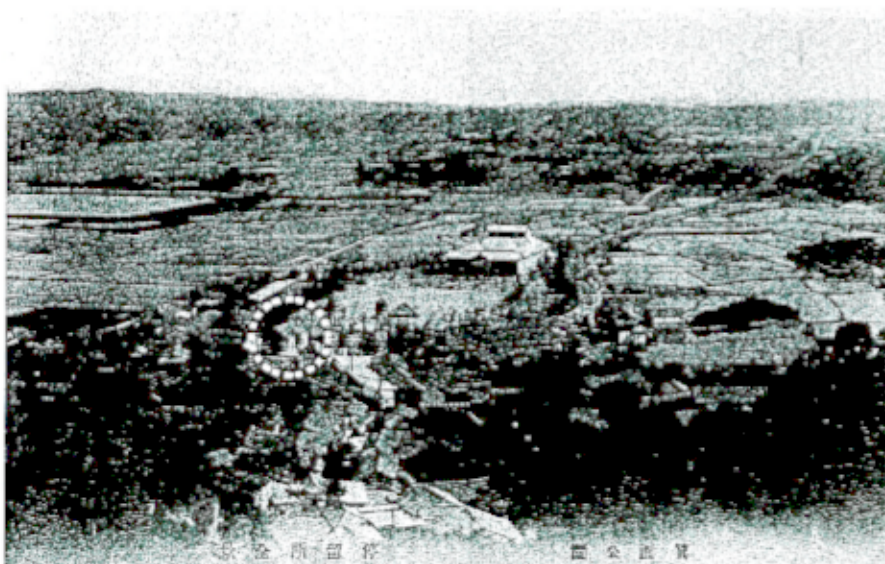
明治 43 年（1910 年）夏頃から明治 44 年（1911 年）6 月頃までの箕面停留場付近（パウリスタはまだ開店していない）



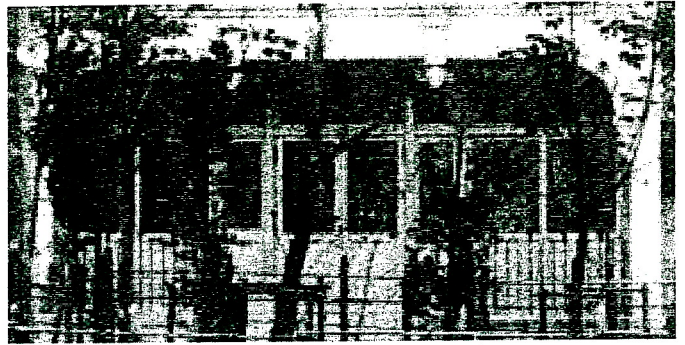
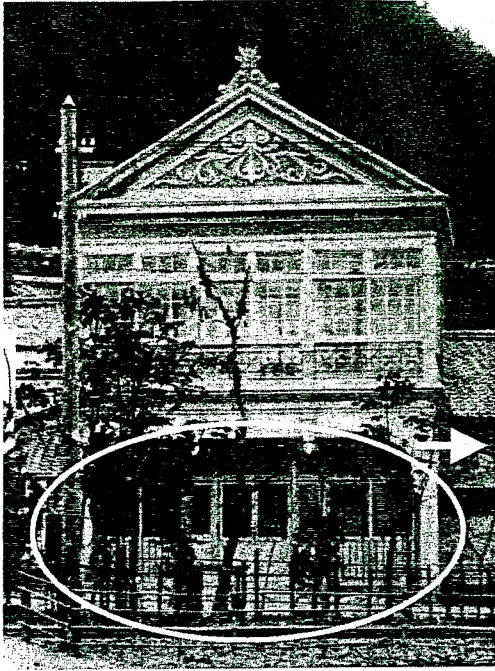
電飾塔（金星塔）と洋館の側面



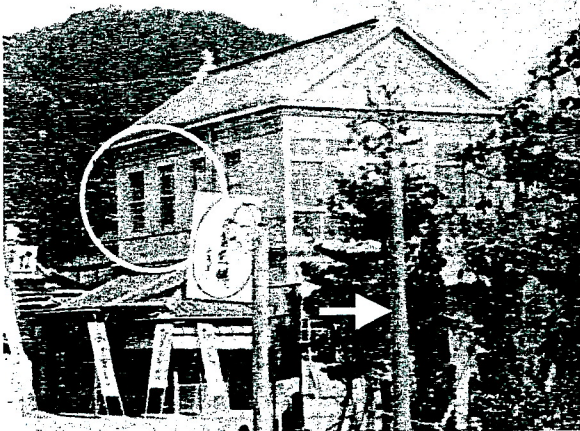
明治 44 年（1911 年）8 月撮影（模型飛行機競技会開催中）



明治 45 年（1912 年）初夏頃に山側から撮影した箕面停留場付近（破線丸印に洋館が写る。店名は見えずパウリスタ閉店）



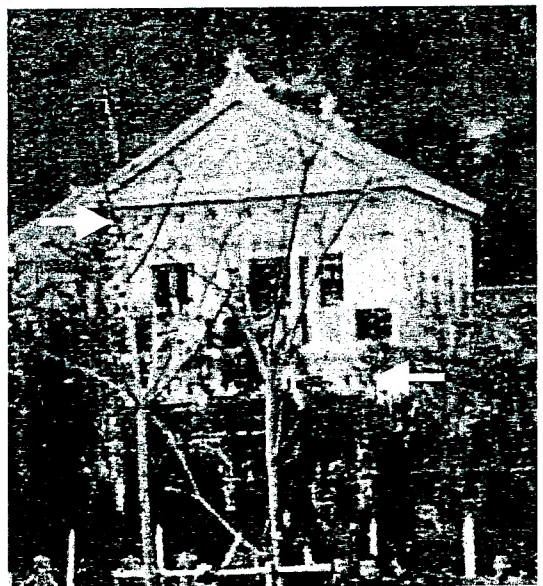
一階正面の扉（左写真の拡大）



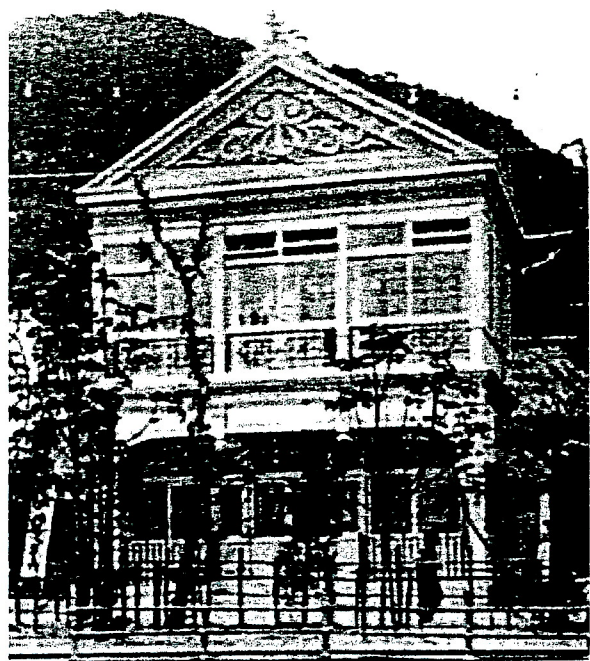
側面の窓（左写真の拡大）



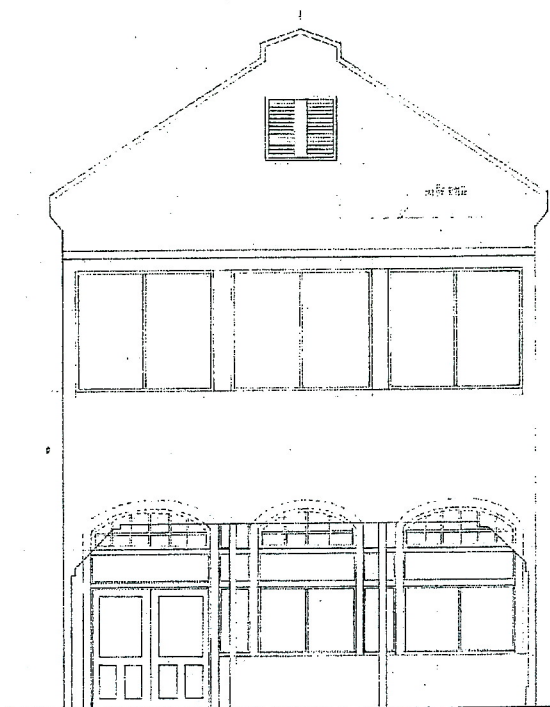
背面の凸字形の窓



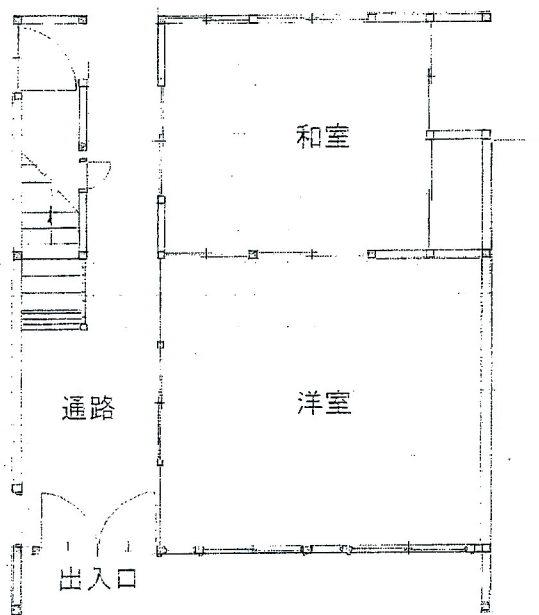
矢印先に店名「カフェーパウリスタ」



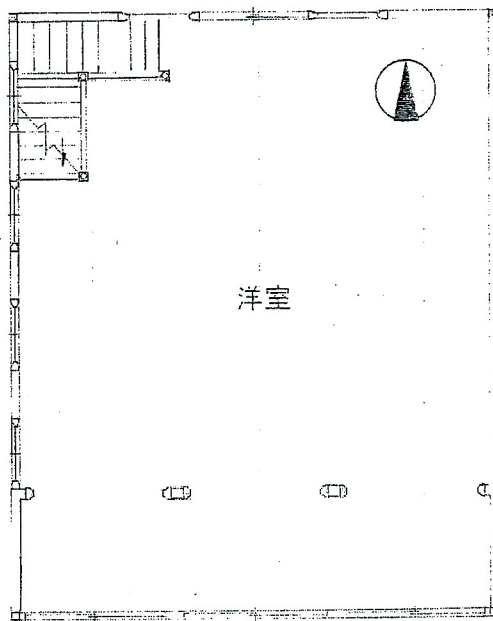
箕面停留場前の洋館



豊中クラブ自治会館・正面立面図



豊中クラブ自治会館・一階平面図



豊中クラブ自治会館・二階平面図